

時事新報

偏する勿れ  
人生の食物は菜穀魚肉辛甘一様あらず各人の好嗜に從てれのへ適する所あれども攝生の點より論するときは飲食の物は成る可く其種類を多くして一品に偏す可らず如何となれば人は博食の動物あればなり飲食にして斯の如くあると同時に人の心の動も亦種々無量ありて武を嗜む者あり文を好む者あり理財一方に心を寄せて錢に勞する者あれば風流を樂んで閑に日月を消す者あり政事に熱心して奔走する者あれば學問に耽りて世を語らざる者あり何れも皆その人の天稟又教育に由て然るものなれども心の攝生法より得失を論するときは此心の動も怠めて其種類を多くして一方に偏する連ふみどあんば我輩は今之日本社會に向て聊か遺憾なりと申す其次第を述べんに第一は在朝の長者に多naれば人は博知多能の雖物なればなり以上の理論にして連ふみどあんば我輩は今之日本社會に向て聊か遺能の人物少あきの一事がなり封建士族の餘流固より遊蕪等の嗜みに乏しく自朝から音樂美術を能せざるのみならず之を聽き之を見る耳目さへ頗敏ならずして心を樂しましむるに足らず尙ほ之より以上に上りて推理文學の事に至りても特に長所なく近年文運隆盛と稱する事の事に至りても特に長所なく近年文運隆盛と稱する所は唯政治の一方のみにして偶も聞あれば空しく山水よ日を消するか若くは耳目内體以下の快樂を買ふて政談の煩鬱を洗ふに過ぎず殺風景なりと云ふ可し箇に殺風景よ止まらず之を人生天賦の功名心方に技術を現して名を博す可し其間に身を處して心事を發明工風して天下の耳目を新にしたるを聞かず其平生較する所は唯政治の一方のみにして偶も聞あらず之を以て之を觀るに富豪が精神以上の思想に乏しく心事單一にして體の外よ思ふ所なきが故ありと云は千年來士と農商と類と殊にして君子は錢の事を言はずて地價得失の念も切迫ならざるを得ず何れも政治の運動に圓滑を缺く一大原因なる可し第二今之都鄙の富豪ある者は君子よ非ざるの習俗に由て然るものならんと雖も左るにても今の文明社會即ち金錢の時代にて其金錢の主人ヶ尙ほ社會の暗處に蟄伏するは何ぞ致富者にして其大數を評すれば君子の風に乏しく資産豊なれども資産の割合に勢力は微弱あるが如し蓋し百年來士と農商と類と殊にして君子は錢の事を言はずて其金錢の主人ヶ尙ほ社會の暗處に蟄伏するは何ぞや我輩を以て之を觀るに富豪が精神以上の思想に乏しく心事單一にして體の外よ思ふ所なきが故ありと云はるを得ず或は大に財を散するみどあるも其法は住居の東を沽譲し別荘の庭園を作り主人自から解せざるの子弟の教育費を奢しむ者るへあきにあらず其心既に肉體以上よ在らざれば社會よ於ける體面も亦その以上又重きを成す能はずして世間より之に對するの感覺に堪えられと金持として觀るのみ其金を除去去るとさは本來無一物よして金と共人の名も亦消滅する其有様は歎嘆能能の政治家が好地位より落たる者よ相似たり

卷之三

○獨逸産の菜種 近來我邦より菜種を海外へ輸出する  
ひとは屢々聞く處なれども是は實の事質なるをあらず  
却て近く身の地位を守り私產を保護するの方便たる可  
きに於てをや我輩は偏に今の官民長者の心事を窺にして  
一局部外と流暢せしめんふとを感する者あり  
慰るの道多きを發明して其道に就くふとあらば天下  
必ずしも政事のみに非ず錢のみに非ず他に亦た心身を  
と雖も時に自から省みて眼光を四方より及ぼし人間世界  
の還生來の教育に由て知識の發達に不平均を致した  
るの罪あれば晩年の習慣より一掃するは難かる可し  
よ異ならず心の攝生法より背くものと云ふ可し畢竟先天  
生無限の食物の中より就き此の一品に偏して之を嗜む  
あく富豪が錢の一事に心身を寄せて顧る所なきは人  
左れば今世の政事家が政事の一方に熱して脣中に餘地  
得ず心事いよく卑くしていよく錢を守るの必要を  
覺え恰も錢の外より一身あるを知らざる者なればあり

して價の廉なるが爲めなりとの事は前號の紙上へも載せしが獨逸產の菜種は我邦在來種よりも收穫甚だ多く現に下總國印旛郡小竹村秋元五平次氏は曾て之を試作して其結果を得たるが爲め年々此種を耕作するみどり記すれば左の如し扱て此獨逸產の菜種は原名を「ヘルブルク」と稱し農商務省よりの寄送品にて試作地は砂壠の濕地二畝步にして數回耕肥の後甲乙二區に分割し十月上旬を以て甲地に在來の日本種乙地に獨逸種を播下し翌年六月下旬成熟期を待て之を收穫せしに其結果は日本種は一斗二升五合獨逸種は一斗八升を得僅に一畝の收穫に五升五合の多きを見たりと而して其所位を審査せるに獨逸種は粒質肥大量目重く外皮薄く色澤濃厚にして油分の多きと他に比すへきものなしとされば此栽培法の概略をも記して今後試作者の参考に供すべし油菜の栽培に二法あり一を精付作とし一を移植作とす蒔付と移植とは地質氣候の異なるに依て適否一定せずあるべしと雖も大概は蒔付の方を良とすれども秋收の後なると作物を栽培せる跡地抔には移植せざるを得ず扱九月下旬より十月上旬に砂交りの畑を數回耕鋤し幅二尺位の畦を造り灰、鰐、柏、糠の三品に浴水を注ぎて混和し一週間放置の後充分腐熟せるものを原肥とし一反歩に付三合五六勺乃至四合位の糞子を播下し薄く遠覆ひを置くときは數日よして發生す斯くて發生の後葉の五六葉も生せし頃即ち十一月下旬に間抜き一番中耕を爲し爾後開花の期までに三回總て四回の中耕を爲し補肥として溝溝入糞に少量の過磷酸石灰を混和し三回床を整理工事の後原肥は前者の如く施して十一月中旬より畦行を二尺より株間一尺八寸隔てに一二株穴植付け耕耘施肥等は蒔付作に異なるなどなしと○既往二十二年間米價高低米は我國唯一の特產又し國の間にあるものとして殆んど一億七八千萬圓の巨額に達するものなれば我國重要な產物として珍重せられ